

令和6年度 自己評価報告書

1 学校の概要

学校名 世田谷区立東玉川小学校
所在地 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢1-1-1
学校長 菅原 展生
児童 386名（令和7年1月現在）
ホームページ <http://www.setagaya.ed.jp/higa>

2 令和6年度の教育目標及び学校の重点目標

以下に本校の今年度の教育目標並びに重点目標を示す。

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神を基調とした教育を推進し、自他を敬愛し、理想に向けて自らを高める志をもち、日本の伝統・文化を継承し、世界の人々と共に生きることのできる児童の育成を図るために、次の教育目標を設定する。

「自分を大切に ひとを大切にする ひがたまの子ども よく学び よく遊べ」

(2) 令和6年度の学校の重点目標

- 「毎日の学校生活を充実させ、ひとを大切にする言動ができる児童」を育成する。
- 「自ら課題を見出し、解決するために自分や友達と試行錯誤を重ね、課題解決を繰り返すことができる児童」を育成する。
- 「ICT機器を効果的に利活用し、自ら学ぶことができる児童」を育成する。
- 「自分の体力を高めることを意識して活動に取り組むことができる児童」を育成する。

3 結果と考察

令和6年度の学校関係者評価アンケート及び児童アンケートの結果と「教員自己評価」の結果を基に、顕著な結果が表れたものについて考察した内容を示す。

※回答選択肢はいずれも、A（とても思う）、B（思う）、C（あまり思わない）、D（思わない）、E（分からない）。

※斜線は該当する項目がない場合。

(1) 学校行事

① 学校関係者評価アンケートにおけるポジティブ傾向の割合

質問項目	児童	保護者
学校行事は、(子どもにとって) 楽しい。	97.4%	97.2%
学校行事は、(子どもにとって) 達成感がある。	89.9%	96.3%

② 教員自己評価におけるポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
適正に教育が行われるように、学校行事が計画的に組まれている。	100%	児童、教員の生活に配慮した計画で、とてもよい。計画的で詳細に書かれていると思う。バランスよく組まれている。

③ 具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none">・前年度の反省や保護者の意見を基に、実施要項を作成している。詳細な内容と計画的な配置で、準備から本番まで円滑に行われている。・ザ☆まつりでは、学級ごとに児童が願いやアイデアを出し合い、計画を立ててお店の準備ができるように指導した。
児童の様子	<ul style="list-style-type: none">・練習計画を基に、いつまでに、何をすることが分かっているので、目的に合わせて着実に力を付けている。・ザ☆まつりでは、学級ごとにお店を出すことで、クラスでの話し合い活動が活発に行われた。そのため、計画的に準備が進み、それぞれの役割に責任をもって取り組んでいた。

④ 考察

児童、保護者、教員とそれぞれ肯定的意見が多く見られ、肯定的な数値で評価がなされた。充実した活動ができるよう丁寧に計画を立て、実行することが結実したと考えられる。一方で、保護者への質問項目「学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」は、ネガティブ傾向な

評価が22.8%と、やや高い傾向にある。実際にはボランティアを中心とした実働や、児童個々に対する準備等、学校としてはたくさんの協力を得られていることを考えると「すすんで」という積極性や「直接に」までは至らないという捉え方があったのではないかと考えられる。

次年度は行事を見直す転換期を迎えているので、「児童が充実して取り組めるように」という理念を根底に置きながら、新たな計画・立案を模索していくようになる。また、関係者には「学習的要素や児童の主体性を促す」という主旨が伝わるようにしていく必要がある。

(2)体力向上

①学校関係者評価アンケートにおけるネガティブ傾向の割合

質問項目	児童	保護者
子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。		16.7%

②教員自己評価におけるポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
子どもたちが自分から進んで体力の向上に取り組めるよう指導している。	89.4%	多くの児童が休み時間に校庭に出て体を動かしている。国語の学習で、体力向上のための取り組み(休み時間の過ごし方)について学級会で課題や対策を話し合い、外遊びする児童が増えた。一緒に外遊びをしながら、体育で学んだことを取り入れている。
休み時間に校庭で元気に遊べるように工夫をしている	84.2%	児童の遊びと一緒に入ることでより多くの児童が外遊びに積極的になった。休み時間開始の時間はきっちりと守るようにする。「皆で鬼ごっこをしよう」など休み時間前に声掛けをしている。クラス遊びの日を設けたり、外遊びに誘ったりしている。自ら毎日声をかけ、率先して遊んでいる。
体育朝会の設定は、児童が体力向上を意識することに役立っている。	89.4%	縄跳び月間は体力向上につながっている。休み時間のチャレンジタイムや体育の授業と朝会がセットで設定されており、苦手な児童もスモールステップで取り組めるようになっている。体育朝会や縄跳び月間における縄跳びカードの取り組みによって、目標に向かって運動することができていた。

③具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事においては、運動会を通して、走る力やリズムによって体を動かす力などを高めることを意図して指導してきた。 委員会活動において、運動委員会の児童が企画運営した活動、「ドッジボール交流会」を各学級行った。この活動を通して、児童一人一人に運動の楽しさを感じさせると同時に、投げる力を高められるようにした。
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> 運動会においては、走る力やリズムによって体を動かす力に個人差がある中で、児童が集団で取り組むことで、運動に取り組む意欲を高め、体力向上を積極的に行うことができた。 運動委員会の「ドッジボール交流会」では、クラスの友達と協力する中で、楽しみながら運動に親しむことができた。また、運動の楽しさを感じたことで、20分休みなどに校庭で遊ぶ児童の姿が増えた。

④考察

教員の自己評価は高く、実践的かつ具体的な取り組みを行っているが、関連する項目において保護者の回答が低くなっている。運動内容によっては、家庭でも同様に取り組めるよう周知していくことで協力を仰ぎながら、認知度を上げていくことも考えていきたい。

一方で、保護者のアンケート項目「本校の子どもたちは、休み時間に校庭で元気に遊んだりしている」はポジティブ傾向な評価が88.5%と高かったが、校内で独自に実施した児童アンケートの「あなたは、体育の時間や休み時間に体力を高めていますか」では、ネガティブ傾向な評価が11.5% (他の質問項目では高くても3%台) と、逆の傾向が見られた。教員の意見にも「外で遊ぶよう、声掛けはしているが難しい」、「声掛けはしているが、一定数は中にいる」という内容が見られ、現実的な厳しさや危機感も感じる。

次年度は発展的な活動も見据えた上で、これまでの体育的活動の継続を維持していくとともに、児童が体力向上の必然性を意識し、外遊びへの関心が高まるようにしていく必要がある。外遊びを促す休み

時間の声掛けも頻度を増やしたり、道具の設置を検討したりするなどして継続していきたい。また、学級での話し合いなどを通して体力向上の意識を自発的にもてるよう組織として呼び掛けていきたい。

(3)生活指導

①学校関係者評価アンケートにおける分らないと回答した割合

質問項目	児童	保護者
本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。		14.6%

②教員自己評価におけるポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
社会のルールを守ることや、子どもたちの問題となる行動に対して、適切にわかりやすく指導している。	100%	学校全体や学年でコミュニケーションを図り共通理解できている。児童が納得しやすいように、言葉選びや態度に気を付けている。夕会で指導すべきことを共有し、学年間で困った事案を相談できているので、より適切な指導ができています。

③具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間などにも学年問わず指導している様子が見られる。 ・特別の教科道徳の授業を活用して、自分事に置き換えながら考えさせることができた。
児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・指摘されたことにうなづくのではなく、自分の言葉で考えて話している。 ・問題が起きた時には具体的に説明したり考えたりしている様子が見られる。

④考察

児童のアンケート結果では「私は、学校のきまりを守って、行動している」に対し肯定的に捉えているのは94.9%で、「先生に注意されたことは、理解できる」は90.7%と高い数値が出ている。教員の自己評価も高いが、「身に付いている」という認識と、「考えさせている」という部分に乖離が生じているのではないかと考えられる。

また、保護者アンケートの「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」はポジティブ傾向な評価が93.6%と高かったが、地域の方からの意見として「登下校時に交通ルールを守れていない様子が見られた」という指摘や、看護当番の報告などからも実際には守れていない場面もあることから、実生活の上ではまだ十分な定着が図れていないことも考えられる。

生活指導の研修で行った一声指導を各学級で継続して行うことや、生活指導夕会での報告などを通して、規範意識をさらに高めていきたい。また、学び舎あいさつデーの取り組みを通じて、地域や保護者にも呼びかけていく。

(4)学習指導

①学校関係者評価アンケートにおける割合

質問項目	児童	保護者
先生（本校）は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	「とても思う」の割合 88.1%	「分らない」の割合 24.0%
先生（本校）は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	「とても思う」の割合 92.4%	「分らない」の割合 15.5%

②教員自己評価におけるポジティブ傾向の割合

関係する質問項目	評価	具体的な意見
授業で、板書を工夫したり、プリントやロイロノートの活用をしたりして工夫している。	94.7%	日々の授業で、工夫を心がけて授業準備を行うことができた。板書だけでなく、ロイロノートの活用で授業の幅が広がっている。内容や表現の仕方によってノートとタブレットを使い分けている。

③具体的な取り組みと、児童の様子

具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none">・国語では、文章の構成を読み取るために段落ごとの重要な言葉や内容をカードにまとめたり、まとめたカードを初め・中・終わりのまとまりに分けたりしている。・社会では、資料から必要な情報を読み取り、情報同士を関連付けて考えられるようにするために、特に注目してほしい資料をロイロノートのカードにまとめて提示している。
児童の様子	<ul style="list-style-type: none">・国語では、ノートにまとめるときに比べて、ロイロノートを使うことで多くの児童が課題に取り組みやすそうだった。また、間違えたところ、分からなかったところの追記や修正も簡単で、手書きに比べてメリットを感じている児童が多かった。・社会では、資料をしばることで課題を焦点化することができ、自力で資料から情報を読み取ることができた。また、読み取った情報同士を関連付けて考えることができていた。

④考察

児童のアンケート結果と教員の自己評価は高い数値が出ているが、保護者の評価としては「分からない」が目立つ結果となった。「せたがや探究的な学び」や「課題解決学習」に関する項目でも同様の結果が出ていることから、教員が実践し、児童も学習に対して好感触を得ていながら、保護者の認知に届いていないことが伺える。

校内研究での教員間での研鑽をさらに重ねるとともに、保護者アンケートの「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」の項目でポジティブ傾向が**95.2%**と高い評価を得ていることから、こうした場を通じて学習の様子を伝えていくことの大切さを再確認するとともに、今後も取り組んでいく必要があると考えられる。